

東南アジア第 3 位を誇るマレーシア・タンジュン・ペラパス港 ～急成長の秘訣を探る～

シンガポール事務所

シンガポールに近いマレーシアの都市、ジョホール・バルの南側に位置するタンジュン・ペラパス港(Port of Tanjung Pelepas:PTP)は 2012 年のコンテナ取扱量(年間 772 万 TEU)において世界第 18 位、東南アジアではシンガポール港(3,165 万 TEU・世界第 2 位)、マレーシアのポート・ケラン(1,000 万 TEU・世界第 12 位)に続いて第 3 位を誇る港です(日本は東京港の 469 万 TEU・世界第 29 位が最高位)。2000 年の開港以来急成長を遂げたこの港を視察しましたのでご報告します。

○運 営

もともと漁村だったタンジュン・ペラパス港は 1994 年マレーシア政府に認可され、2000 年に操業を開始しました。経営及び運営は 100%民間会社である PTP 社(Pelabuhan Tanjung Pelepas Sdn Bhd)が行っており、株式の 7 割は MMC 社、3 割は世界的なコンテナターミナルのオペレーション会社である APM Terminals 社が所有しています。MMC 社はジョホール港やペナン港、セナイ空港、クアラルンプールで開発中の MRT(地下鉄)も所有しているマレーシア国内有数の企業です。開港当初から民間の会社が保有する港ですが、役員には交通省、財務省からの出向者が含まれ、計画は常に政府の承認を要し、報告や説明が義務付けられるなど、政府と密接な関係を保ちながら運営されています。土地は政府の所有で、PTP 社に対し 1995 年から 2055 年までの 60 年間にわたる使用許可が与えられており、その後も 30 年間の契約が更新される予定です。港内に設置されている自由貿易地区(フリーゾーン)も PTP 社がマレーシア政府から認可を受けて経営及び運営しています。

○特 徴

タンジュン・ペラパス港は 94%がトランシップ貨物(船から船への積み替え)で占められているハブ港湾です。同じジョホール・バル市内にあるジョホール港はマレーシア国内への物資の輸送を主としており、港としての機能、ターゲットとする貨物が異なります。

タンジュン・ペラパス港はコンテナ船の運航船腹量

(船の積載量)で世界最大を誇るデンマークの海運会社マースク社がいち早く世界拠点のひとつ

として選択したことで注目を集め、また、エバーグリーン社等世界有数の海運会社に選ばれる港となり、今日の発展を遂げました。100%コンテナ港であり、石油やその他の一般貨物は取り扱っていないことにも特色があります。



東南アジアにおけるマースク社の拠点

○地理的強みと利用料の安さ

タンジュン・ペラパス港はマレーシア南端の都市ジョホール・バル南西、海上交通の要衝であるマラッカ海峡沿いに位置します。近接するシンガポールと同一の経済圏として発展が期待され、大規模開発が進められているイスカンダル地域に属しています。シンガポール港



は世界最高水準のサービスを誇るコンテナ取扱量世界第2位の港ですが、アジア諸港のなかでは利用料が高いことから、タンジュン・ペラパス港が利用料の安さで競争力を保っています。シンガポールのチャンギ空港(車で90分)、ジョホール州のセナイ空港(車で30分)、ジョホール港にも近く、また、マレー鉄道とも結ばれており、陸・海・空のアクセスに優れていることも強みです。

タンジュン・ペラパス港の位置 (Web サイトより抜粋)

○広大な敷地と更なる開発計画



先が見えないほどの敷地の広さ

タンジュン・ペラパス港の強みはマレーシアという国の広大さを生かした敷地の広さにもあります。ターミナルは約2,000エーカー(約8,094km²)、自由貿易地区(フリーゾーン)は約1,500エーカー(約6,070km²) (未開発部分も含む) あります。バース(船の接岸場所を数える単位)数は現在12、今年5月には14に増え、完成後の

埠頭の総延長は約5キロ(ほぼ一直線)に及びます。これにより、同港の年間取扱能力は850万

TEUから1,050万TEUに拡大します。ターミナルには広大な空きスペースがあるので、2032年までのマスタープランによれば95バース、1億5,000万TEUまで拡張が可能です。

○自由貿易地区(フリーゾーン)

タンジュン・ペラパス港は開港に先立ち1998年に自由貿易地区(フリーゾーン)の指定を受けています。この区域内は関税がからないなどインセンティブが設けられ、BMWの部品配送センターをはじめ外資系企業等38社が入居し、製造業(加工)及び物流の拠点として倉庫などに利用されていま



自由貿易地区内にある、企業の倉庫

す。これら企業の活動により、10年間の投資総額は27億リンギ（約837億円）にも及びます。自由貿易地区は現在フェーズ2までの638エーカー（約2,581 km²）が完成しています。今後、フェーズ5までが完成すると、1,586エーカー（約6,418 km²）になる予定です。

〇おわりに

高品質のサービスを武器に圧倒的な優位を保ってきたシンガポール港ですが、近年その地位が脅かされているとも言われます。それは、タンジュン・ペラパス港のような近隣の新興港湾が、利用料の安さだけでなく自由貿易地区の整備やその他の利点で競争力を高めてきたためです。広大な土地の中ゆったり時間が流れるイメージのあるマレーシアのタンジュン・ペラパス港ですが、その戦略は着実に功を奏しており、今後の展開に注目したいと思います。

（松田所長補佐 東京都派遣）

